西野美奈さん　株式会社 mate 代表取締役　名古屋名東ライオンズクラブ会長

「長く続けること」を常に考えながら店舗づくりをしていきたい

なでしこ力

Power of Nadeshiko

複数の飲食店を経営する mate の代表取締役として、また名古屋名東ライオンズクラブ会長として多忙を極める西野美奈さん。独自の経営理念で店を切り盛りして二十数年。一般企業にも多く人脈を持ち、コロナ禍を乗り切り、今後の出店も見据える「やり手経営者」だ。しかしどこか淡々として優雅なたたずまいの西野さんに話を伺った。

西野さんは複数の飲食店を経営し、「完全なボランティア団体だから」という理由で、名古屋名東ライオンズクラブに入会。現在は会長も務め、先日は同クラブメンバーととも名東区役所への大型看板寄贈の式典に列席、月数度の会議など、ライオンズクラブ会長としての出番も多く、一般企業にも幅広い人脈を持つ。

西野さんは現在、錦三丁目で、「焼肉ぱんだ」、「Menbers 花はな」などを経営している。「焼肉ぱんだ」はコロナ明け直前の昨年２月に開業。予約制で、顧客が店舗のインターホンを押して入店するユニークなもの。24 席と大規模な店舗ではないが、行き届いた接客と生タンの美味しさで知られる人気店である。

「この国はサラリーマンが支えている」

「Menbers 花はな」は開業 11 年。東海エリアの会社社長、会長、管理職などに知られたクラブである。コロナ禍の非常に厳しい時期も乗り切ることができたのは「お客さんに恵まれ、信用されていたことでしょうか」と振り返る。店舗は 15 坪 15 席とこじんまりしているのは「長く続けるためです。あえて小さい店にすれば、何かあったときに損失も大きくならないからです」。

西野さんには「この国はサラリーマンが支えている」という揺るがぬ思いが常にある。その上での店づくりで、コロナ前もコロナ後も、価格設定はサラリーマンを意識したもので、料金も含めて何も変えないで続けてきた。月一度だけ来店してもらえるサラリーマンにも温かく接遇する。こうした姿勢が新しい顧客を呼び、信頼を集めてきたようだ。

クラブのスタッフ選びも他店とは違う。女の子の採用を決める際はお店の男性スタッフに一任、自分を含む女性スタッフは採用に口を出さない。顧客目線でスタッフ選びに徹することが良い結果につながっている。

「お店の女の子たちは、週２回程度のシフト制で、レギュラーはいません。名刺を持たせないし、担当制でもない。昼に仕事をして夜に同店で働く子も多く、夜の仕事に専任したい子もいますが、お昼の仕事はやめてはいけ

ライオンズクラブの寄贈に対して名東区長から感謝状を受け取った